

# 平成26年度「高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ」開催報告

平成26年8月28日(木)  
於・金沢大学

## <プログラム>

- 9:00 開会  
女性研究者研究活動支援事業の取組説明  
(事業取組責任者 上田悦子教授)
- 9:15 事例発表  
八戸工業高等専門学校教授 阿部 恵  
富山高等専門学校教授 新開純子  
福井工業高等専門学校教授 常光幸美
- 10:15 パネルディスカッション  
(女性教員のキャリア形成における課題と解決について)  
パネリスト：事例発表者  
コメンターター：明石工業高等専門学校長 京兼 純  
モデレーター：奈良工業高等専門学校教授 上田悦子
- 12:00 閉会

平成26年8月28日(木)の午前、全国高専教育フォーラム3日目に金沢大学において「高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ」を開催しました。

このワークショップでは、先輩女性教員のキャリア事例の紹介を通して、多様な選択肢、価値観、ライフスタイルを知るとともに、キャリア形成過程で直面する問題点や支援のあり方等について議論しました。この議論を通して、キャリアアップの方策や両立支援の有効なノウハウについて情報共有・交換を図り、課題解決へのきっかけをつくる機会を提供しました。

当日は、41名(男性21名、女性20名)の参加があり、男性、女性にかかわらず、事例発表者の話に大きく頷きながら、共感している様子がうかがえました。



開催にあたり、高専機構本部 内山祐二郎事務局次長より男女共同参画の推進の取組みについて説明がありました。そして、今回のワークショップへのご協力、ご参加の先生方、関係者への謝辞を述べられるとともに、キャリア形成過程で直面する問題点やあり方々々について活発な議論により、意義のあるワークショップになるよう激励のお話がありました。

続いて、女性研究者研究活動支援事業取組責任者の上田悦子先生(奈良工業高等専門学校教授)より、女性研究者研究活動支援事業の説明があり、活動内容の報告と女性教職員をつなぐネットワーク支援への積極的な参加についての協力依頼がありました。



事例発表では、発表者3名の女性教職員が、自身のキャリアステージやライフステージでの経験を紹介し、教育研究や校務との係わりの中で直面した課題、工夫や支援、どのようにキャリアアップしてきたかについての発表がありました。



八戸工業高等専門学校教授 阿部恵先生からは、女性教員のワークライフバランスを中心テーマとして、「高専のために何ができるのか」、「自分がここにいる意味」という仕事に取組む思いや、育児との葛藤など自分なりの働き方・生き方についてお話いただきました。また、「結婚、育児、仕事、すべてが自分を成長させてくれること」や、「こうあるべきと決めつけず、自然体で」などのキャリアマザーへのアドバイスがありました。そして、ご自身のこれからについては、感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献していきたいとし、「What can I do for you?」を心に自分自身の存在、何ができるかを考え続けていきたいというお話がありました。



富山高等専門学校教授 新開純子先生からは、教務主事に就いている観点を中心にご自身のキャリアを振り返りながら、高専女性教員のキャリア形成に対する各年代の不安を、職務等の役割を踏まえながら発表されました。また、学科長の時に意識していたこと、教務主事として意識していることについて、自分の役割に関するお考えをお話いただきました。そして最後に、自分に合ったキャリア形成について、「人と比べても意味がない」、「お互いに助け合う仲間をつくる」、「あきらめない」などのお言葉と、「今、できることを精一杯頑張る!」という先生のモットーをご紹介されました。



福井工業高等専門学校教授 常光幸美先生からは、女性研究者として研究活動の工夫を中心にお話いただきました。高専での限られた環境（実験設備、時間、校務、スタッフ等）の中で、国内外等の研究機関からの協力を得ながら共同研究を進めていることや、「高専は学生とともに研究に与る」とし、研究活動は教育の一環という役割を担い、内容が濃い研究であればあるほどより高度な教育につながるという思いで研究を進めてきたことをお話になりました。そして、出産・育児・介護等の役割は女性に課され、ストレスが生じることもあるが、肩の力を抜いて素直に支援を請い、「急がば回れ」でそれぞれの充実した教育研究人生を送ってほしいとアドバイスされました。

「急がば回れ」でそれぞれの充実した教育研究人生を送ってほしいとアドバイスされました。



パネルディスカッションのパネリストには、事例発表者である八戸工業高等専門学校 阿部恵先生、富山高等専門学校 新開純子先生、福井工業高等専門学校 常光幸美先生、コメンテーターには、明石工業高等専門学校長 京兼純先生を迎え、モデレーターの奈良工業高等専門学校 上田悦子先生司会のもと、「女性教員のキャリア形成における課題と解決について」の議論が展開されました。

まず、京兼校長より高専での研究活動について、「継続可能なテーマを選ぶ」、「研究成果の出やすいもの（オリジナル、ニッチを覗んだ研究）」、「研究グループをつくる」、「学会発表・論文など自らノルマを課す」、「専攻科生との共同作業（学生の学会発表を義務化する）」など議論にあたっての示唆に富むお話をいただきました。

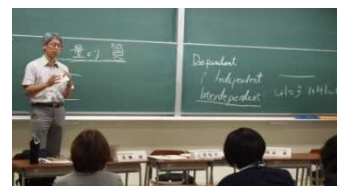


続いて、パネルディスカッションでは、会場からの質問票をとりまとめながら、「忙しい高専教員が自分の研究を進めていく工夫」、

「学会発表、論文、プロジェクト等の締切りが迫った際にどう乗り切っているか」、「昇任するに至る経緯と女性としての壁はあったのか」、「ライフイベント中での渡航等の工夫」、「我が子が自分の働く姿を見ながらどのように育ってきていると思うか」、「女性教員の単身赴任について」、「ライフイベント中での研究環境について」、「研究支援員採用や共同研究実施の地域格差について」、「高専内で共同研究、共同プロジェクトについて」、「退任した教員等の代替教員活用について」など多数のテーマをもとに活発な議論が行われました。また、討議途中に、紀聖治理事より研究環境についてのご助言をいただきました。



本ワークショップの最後に、上月正博理事より「量より質」をもとに校務・授業の質を高めることへの期待、「interdependent」という同じ目標・目的を共有し、自分の生活の価値を高めると同時に、社会的立場も高めるといふ言葉、「追われる忙しさ」から「攻めていく忙しさ」への転換などの激励のお話がありました。



実施後の参加者アンケートでは、高専教員のライフヒストリーを聞き、同じ悩みや、意識があることを知れて励みになったという意見や、日頃の業務、研究、そしてこれから生じるライフイベントへの不安が少し解消されたという意見など、本ワークショップが参加者自身のキャリアについてじっくり考える機会を提供できたことがうかがえました。